

中西景子

2006年7月に「沙羅の樹文庫」ができ、1年半経って、たくさんのお仲間ができました。おかげでたくさんのおすてきな絵本にも巡り合い(その分例年よりも大人の本の読書冊数が減りました。。「おはなし」を語る勉強会もはじまって、本環境がすこし変わってきました。本がなかなか手に入りにくいこの場所で文庫があることに感謝しています。1月から自治会館に図書館の移動バスがくるようになりましたが、今年はずっとどんな読書体験ができるでしょうか。

私のおすすめ10冊 2007年読んだ本

『心がポカポカするニュース』(日本新聞協会編 文藝春秋 06.8)

『七夕しぐれ』(熊谷達也著 光文社 06.10) \*

『家のロマンス』(加藤幸子著 新潮社 06.6)

『あなたは人を殺しましたか』(アレン・ネルソン著 講談社 03.7) \*

『四季の贈りもの』(浜美枝著 PHP 出版社 96.6)

『木々を渡る風』(小塩節著 新潮文庫 93.8) \*

『いのちを生きる』(重兼芳子著 中央公論社 93.8)

『北園町93番地』(山田稔著 編集工房ノア 00.9)

『おばあさん』(ニエムツォバー著 栗栖継訳 岩波文庫 71.9)

『ルリユールおじさん』(いせひでこ作 理論社 06.9) \*

★残念ながら紙面の都合で、読書寸評を掲載できませんでした。ご本人に聴いてください。

\*印は文庫にあります。

♡♡文庫あれこれ♡♡

◆伊豆高原の駅からの道、大寒桜が見事に咲いていました。そして、文庫の庭も河津桜が満開。もう春が近いですね。庭にすずめよりちょっと大きい鳥がたくさん来て枝から枝へ、飛んでいます。お花見でもしたいのに、でも今日は雨です。◆例年より遅れた山焼きはどうでしたか?◆2月末から花粉症で私は喉がやられています。みなさんは大丈夫ですか?◆ホームページが開店休業中です。しばらくお待ちください。03.14 (西村)

“ “これからの催し物のお知らせ” ”

5月アートフェスティバル参加

10日~18日文庫開館 10時~15時

展示会 手作り絵本\*調べ学習優秀作品展示

(11~17日)

大きい人のおはなし会 (10日土曜夕)

小さい人のおはなし会(11日日曜 10:30)

★両日ともゲストを招いてのおはなし会です。

7月海の日のおはなし会

7月20日(日)夕刻から 伊豆高原駅

文庫開館記念こどものためのおはなし会

7月21日(月)朝 10:30~ 沙羅の樹文庫

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆4月は1週間早い第2週の土日 12日 13日が開館日です。お間違いのないように!

◆5月は上記です。10、17日は5時まで。

◆文庫の時間:土曜日は午後2時~5時、

日曜日は午前10時~午後3時

◆毎月開館日の日曜には、子どものための小さなおはなし会があります。

午前10:30~11:00

♡文庫開館日は毎月、第3日曜とその前日の土曜日の2日です(従って第3土曜日でなく第2土曜日ということもあります)。

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》

みんなで勉強会

★4月は12日(土)午前11時からです。

★関心のある方はご連絡ください。

# 沙羅の樹文庫だより

## No.19

(2008年3月号)

春の野の花 見つけた~



花の街(江間章子)  
七色(なないろ)の  
谷を越えて  
流れて行く風のリボ

輪になって  
輪になって  
かけていった

春よ春よと  
いったよ

見たよ  
あふれていた

つ街よ  
輪になって  
輪になって  
踊っていたよ  
春よ春よと  
踊っていた

してた窓で  
泣いていたよ  
街の角で  
輪になって

つて  
春の夕暮(ゆうぐ)れ  
ひとり ひとりさびしく  
泣いていた  
よ

春になると口ずさむ大好きなうたです。

別れと出会いの春。今日は幼稚園の卒園式が多かったようですね。文庫では新1年生は誰でしょう？

### 紹介・子どもの本 大人の本

#### ★会員から会員へおすすめの本★

(文庫の棚の本を紹介していただいております)

今回は、児童書2冊です！

#### 『ふしぎなナイフ』を読んで

(中村 牧江さく 林 健造さく 福田 隆義え 福音館書店)

『ふしぎなナイフ』をよんで、ぼくはほんとうにふしぎになりました。

なぜナイフがまがるのか、わかりませんでした。しかも、なぜねじれるのかふしぎです。

一ばんふしぎにおもったのは、『ふしぎなナイフ』のさいごのページに出てくる「ふしぎなナイフ」がふくらむところです。

二ばんめにふしぎだったのは、「ふしぎなナイフ」がほどけるところです。

ふだん、ナイフは、おにくなどをきる 도구ですが、ナイフがきれるなんて、へんでした。

でも、とてもおもしろい本でした。(あきよし たかひろ)

④この絵本はたくさんのおもちゃに読まれているロングセラーです。科学のなぞ、ふしぎに魅入られたことも、大きくなって何でだろう、どうしてかな、どこに解く鍵がひそんでいるのかな、とぜひとも科学する心を持ちつづけてほしいものです。昨今、理系にすすむ子どもが少ないと聞くとなおのこと。

☆☆たかひろくんは、もうすぐ2年生。絵を描くのもとて

も上手。この間は自作のおとな顔負けの紙芝居を演じてくれました。ゆりなちゃん、かえねちゃんと3人、八幡野小1年トリオです。

(沙羅の樹)

#### 『ダレン・シャン』

(ダレン・シャン著 橋本恵訳 小学館)

私は小さいときから本が大好きです。色々な本を今まで読んできました。私の好きな本は、読んでいながらその世界に引きこまれ、ワクワクドキドキする本です。

1, 2年前、学校の掲示板に『ダレン・シャン』を紹介する話がのっていました。その時は「また今度読もう」と先のばしにしていたのですが、沙羅の樹文庫にあったので、借りました。

最初、ごく普通の少年ダレン・シャンが友人といっしょにくわしいサーカスに行きます。ダレンは、サーカスに出てきた毒グモに一目ぼれ。その毒グモをぬすみ、友達のスティーブと遊んでいた時、スティーブが毒グモにかまれてしまいます。生死をさまよっているスティーブに、ダレンはバンパイアのたすけをよびます。しかし、その条けんは……!?

私はこの本を読んだ時、とてもドキドキしました。この本のすごい所は3つあります。1つめは、描写がとてもリアルということ。2つ目はストーリーの展開が想像できないということ。3つ目は、絵(さし絵)に人物の顔が出てこないで、自由に想像できるということです。

とてもおもしろいので、ぜひ読んでみてください。

(對中 遥)

④『ダレン・シャン』は、タイトル、作者、主人公がみんな同じ名前。恐いもの見たさに「ダレン・シャン」ブームを起こした一連の本です。文庫に全巻13巻そろっています。今、12巻が貸し出し中なのですが。

☆☆たいなかはるかちゃんは、いつもおとうさんと妹さんとやってきます。中学へ行っても文庫の本をかたづけしから読破してほしいなと思います。

(沙羅の樹)

### 新刊・新入庫の本

#### 子どもの本

##### 絵本

『トコトコさんぽ』(長野ヒデ子作 スズキコージ絵 すずき出版 2006) 『はたけのともだち』(田島征三作 童心社 1984) 『天人女房』(稲田和子再話 太田大八 童話館出版 2007)

##### 読みもの

『魔使いの秘密』(J. ディレイニー作 金原瑞人・田中 亜希子訳 東京創元社 2008) (『魔使いの呪い』が後になってしまった。ごめんなさい! (リクエスト))

『もっと! そばかすイエシ』(ミリヤム・プレスラー作 斎藤尚子訳 山西ゲンイチ絵 徳間書店 2003) (リクエスト)

『ウォートンとモリネズミの取引屋』(エリクソン作 ディ・フィオリ絵 佐藤涼子訳 評論社 2008)

##### 文庫

『第9軍団のワシ』(ローズマリ・サトクリフ作 猪熊葉子訳 岩波少年文庫 2007) (リクエスト)

『けものたちのないしょ話—中国民話選』(君島久子編役 岩波少年文庫 2001)

『わらしべ長者—日本民話選』(木下順二作 赤羽末吉画 岩波少年文庫 2000)

#### おとなの本

##### 読み物その他

『夕映えの道—よき隣人の日記』(ドリス・レッシング著 新潮社 2003) (リクエスト) 著者はノーベル賞作家

『鬼のろろ』(素九鬼子著 筑摩書房 1977) (寄贈蔵有本) 『旅の重さ』の作者によるおとなのための童話

『歌集 山姥』(鶴見和子著 藤原書店 2007)

『物語が生きる力を育てる』(脇明子著 岩波書店 2008)

##### 文庫

『しゃべれどもしゃべれども』(佐藤多佳子著 新潮文庫) 『うつくしい子ども』(石田衣良著 文春文庫) 『絵

具屋の女房』(丸谷才一著 文春文庫)『メリーゴーランド』(荻原浩著 新潮文庫)『叶えられた祈り』(トルーマン・カポーティ著 川本三郎訳 新潮文庫)